

# 株式会社ラック

## 2024年3月期 通期決算説明会 説明要旨

本資料は、2024年5月14日に実施した機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会において、当社代表取締役社長の西本が説明した内容（一部要約）です。



# 株式会社ラック

## 2024年3月期 通期決算説明資料

2024年5月14日

おはようございます。社長の西本です。

皆様、本日はお忙しいなか、決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

## 2024年3月期 通期決算概要

それでは2024年3月期の通期決算概要について、ご説明いたします。

## 通期決算のポイント



### セキュリティ事業、SI事業ともに伸長し前期から増収・増益

セキュリティ事業は増収となった一方で、緊急対応の体制強化や運用監視のサービス力強化による先行投資等の影響により減益  
(体制強化の遅延や追加施策による影響もあったものの、翌期以降にこれら施策の収益貢献を見込む)

SI事業は開発サービスを中心に好調に推移し増収・増益

### 売上高・利益とも期初予想を達成

織り込んでいなかったオフィス更改関連費用の計上はあったものの、好調なSI事業の進捗や経費減などの効果で売上高・利益とも期初予想を上回る

### 期末配当は計画通り1株当たり14円とし、年間配当は26円の予定

4

© 2024 LAC Co., Ltd

まずは決算のポイントとなります。

セキュリティ事業、SI事業ともに伸長し、前期から増収・増益となりました。セグメント別では、セキュリティ事業は増収となったものの、施策の遅れや先行投資の影響により減益となっております。

緊急対応サービスにおいて、既に発表している大規模インシデントに効率よく対応できるソリューションを持っているシグニア社との協業体制強化が遅れたこと、テレワーク環境も対象となるように運用監視サービスでXDRへの対応などを行ったこと、また大規模な個別監視サービスに対して、より低コストでハイパフォーマンスを実現するテラデータ社の大規模分析基盤を導入するなどの先行投資を行いました。

ますます大量になるデータ分析を、より高速に、低コストで行うことは私たちの重要な戦闘力の一つです。このような影響はあったもの、これらは、今期以降、収益に貢献できるものと考えております。

一方、SI事業については、主力の開発サービスを中心に好調に推移し、増収・増益となりました。

当初織り込んでいなかったオフィス更改関連の費用で1億6,000万円ほどの支出はあったものの、SI事業が好調に推移したことや、経費抑制もあり、期初予想に対しては売上・利益ともに上振れて着地いたしました。

なお、期末配当につきましては、計画通り1株当たり14円とし、年間配当は26円となる予定です。

## 連結決算ハイライト（前期比）



売上高はセキュリティ事業、SI事業の伸長により増収  
営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は大幅増益

(百万円)

科目	'23年3月期 通期実績	'24年3月期 通期実績	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	44,018	49,477	+5,458	+12.4
営業利益	1,775	2,174	+399	+22.5
営業利益率%	4.0	4.4	+0.4p	-
経常利益	1,813	2,153	+340	+18.8
経常利益率%	4.1	4.4	+0.2p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	△147	1,379	+1,527	-
自己資本当期純利益率（ROE）%	△1.0	9.1	+10.1p	-

(注) 2023年3月期に社内基幹システム開発の中止に伴う特別損失として1,854百万円を計上しています。

5

© 2024 LAC Co., Ltd.

ご覧の通り、売上高は、前期比 12.4%増、営業利益は 22.5%増、経常利益は 18.8%の増となっております。

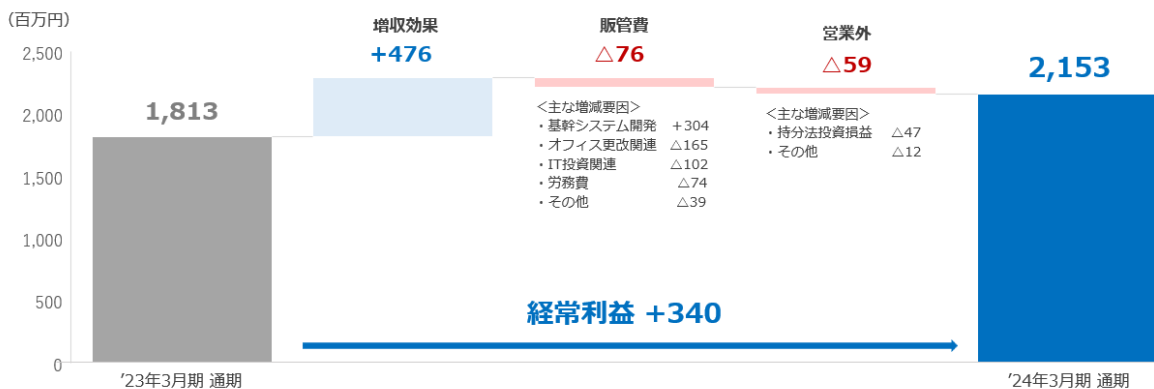
当期純利益に関しては、前期は社内システム開発の中止に伴う特別損失の計上があり赤字となりましたが、今期は 13 億 7,900 万円の黒字に戻しております。

結果 ROE も、前期から大幅に改善し 9.1%となりました。

## 経常利益 増減要因分析（前期比）



オフィス更改関連費用や IT投資、持分法投資損失の増加などがあったものの  
増収効果や社内基幹システム開発費用減の影響などにより経常増益



(注) 1. オフィス更改関連の費用は、平河町オフィス（2025年3月に賃貸借契約終了予定）の契約更改に伴う原状回復費の資産・負債計上および既存資産の見積り変更による減価償却費増加分等によるものです。

2. 持分法適用関連会社としてKDDIデジタルセキュリティ㈱、ニューリジェンセキュリティ㈱の2社があります。

6

© 2024 LAC Co., Ltd.

次に経常利益の増減要因分析となります。

売上総利益が前期より拡大し、増収効果として4億7,000万円のプラスとなりました。

販管費は、前期にあった社内基幹システムに関連する費用減があったものの、今年度末に契約終了予定の平河町オフィスの更改関連の費用をはじめ、IT投資や労務費が増加した影響などにより、7,600万円の利益押し下げとなりました。

営業外においては、合併会社のKDDI デジタルセキュリティが前期に比べて減益となったことで持分損失が増加し、5,900万円のマイナスインパクトとなりました。

これらの結果、経常利益は全体として前期より3億4,000万円の増益となっています。

セグメント別業績（前期比）				
セキュリティ事業は増収・減益、SI事業は増収・増益 全社共通費用は社内基幹システム費用減の影響などにより減少				
(百万円)				
売上高	'23年3月期 通期実績	'24年3月期 通期実績	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	19,521	22,159	+2,637	+13.5
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	24,497	27,317	+2,820	+11.5
合計	44,018	49,477	+5,458	+12.4
セグメント利益	'23年3月期 通期実績	'24年3月期 通期実績	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	2,366	2,260	△105	△4.5
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	3,429	3,854	+425	+12.4
合計	5,795	6,115	+319	+5.5
全社共通	△4,020	△3,940	+79	-

(注) セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の事業にかかる販売費及び一般管理費を含めた利益です。

次にセグメント別の業績です。

セキュリティ事業は、前期から13.5%の増収となりましたが、先ほどご説明した通り、先行投資の影響により減益となりました。

SI事業は、前期比11.5%の増収、セグメント利益は12.4%の増益となっております。

全社共通費用は、7,900万円のプラス効果となっております。

次に各セグメントの詳細についてご説明いたします。

## セグメント別業績ポイント セキュリティソリューションサービス（SSS）事業



### 製品販売や診断サービスなどが拡大し増収 事業体制・サービス力強化のための先行投資の影響などにより減益

#### セキュリティコンサルティングサービス

緊急対応サービス案件の減少はあったものの、体制・対策強化に向けたコンサルティング案件の拡大や標的型メール訓練など教育サービスが伸長したことで増収

#### セキュリティ診断サービス

年間で手掛ける大型案件の売上計上があったことや潜在的な脅威を調査するペネトレーションテストの案件が拡大したことで増収

#### セキュリティ運用監視サービス

特定企業向けに高度な対策を行う個別監視サービスや内部不正監視サービスが伸長するとともに、エンドポイント対策支援サービスが拡大したことにより増収

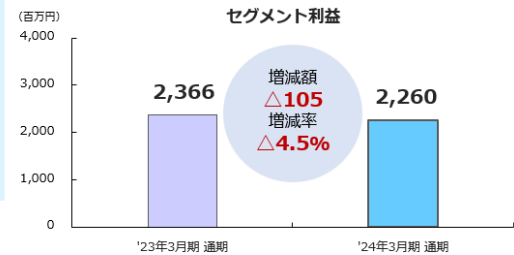
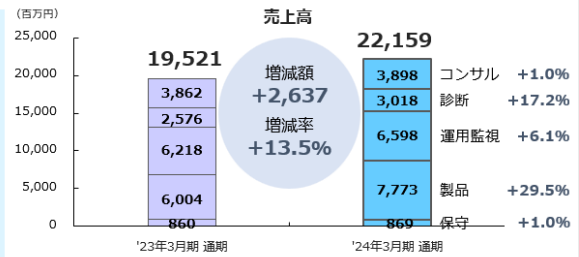
#### セキュリティ製品販売

エンドポイント対策向けおよびサービス妨害型攻撃にも対応したWebセキュリティ対策向けクラウド対応製品や、潜在的な脅威情報の分析製品などが大幅に拡大し増収

#### セキュリティ保守サービス

クラウド対応製品の拡大等で需要が縮小している影響はあるものの、既存案件等が増加したことにより増収

(注) 当連結会計年度より、以下のとおりサブセグメント間で事業の組み替えを行っています。それに伴い、前期を変更後の数値に組み替えて表示しています。  
 ・エンドポイント対策支援サービス：コンサルティングサービス → 運用監視サービス  
 ・標的型メール訓練サービス：診断サービス → コンサルティングサービス



© 2024 LAC Co., Ltd.

まずはセキュリティ事業です。

第2四半期の説明会でもご説明しましたが、サブセグメント間で事業の組み替えを行っており、前期分は組み替えて表示しています。

コンサルティングは、緊急対応サービス案件の減少はあったものの、コンサルティング案件が拡大するとともに、標的型メール訓練を軸に教育サービスが伸長したことにより、増収となりました。

診断サービスは、ペネトレーションテストを含め、年間で手掛ける大型案件の売上計上があったことで増収となりました。

運用監視サービスは、特定の企業向けにカスタマイズされた高度な対策を行う個別監視や、内部不正の監視、さらにエンドポイント監視などが伸長したことにより、増収となりました。

製品販売は、クラウドストライク社のエンドポイント対策製品や、アカマイ社のウェブアプリケーションファイアウォール製品などが大きく伸長したことにより、増収となりました。

保守サービスは、セキュリティ製品がオンプレミスからクラウド対応製品へと移行している影響はありますが、既存案件などが伸長したことにより、増収となりました。

セグメント利益は、先にご説明したとおり、減益となっています。

## セグメント別業績ポイント システムインテグレーションサービス（SIS）事業



## 開発サービスやHW/SW販売などが伸長し増収・増益

## 開発サービス

大手銀行やクレジットカードなどの金融業向け案件に加え、公共向け案件が大幅に伸長したことにより増収

## HW/SW（ハードウェア・ソフトウェア）販売

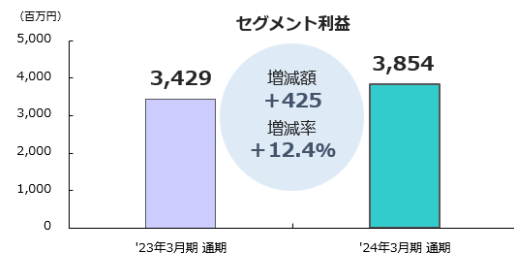
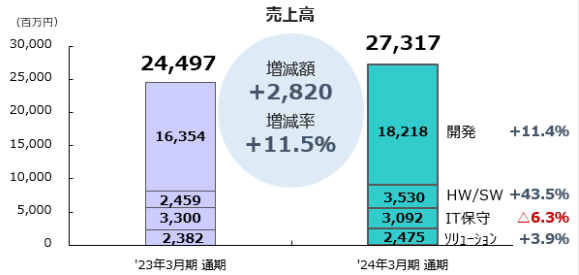
クラウドサービスの拡大等で需要は縮小しているものの、更新案件等の獲得により大幅に伸長したことで増収

## IT保守サービス

更新案件等が減少したことにより減収

## ソリューションサービス

サイバーセキュリティ対策にも寄与するクラウドソリューション製品の販売が拡大したことで増収



9

© 2024 LAC Co., Ltd.

続いてSI事業です。

開発サービスは、大手銀行やクレジットカードなど金融業向け案件が伸長するとともに、公共向け案件も大きく伸長し、増収となりました。

HW/SWは、需要の縮小傾向はあるものの、更新案件の獲得により大幅に伸長し、増収となりました。

IT保守は、更新案件等が減少したことから、減収となりました。

ソリューションは、サイバーセキュリティ対策にも寄与するクラウドソリューション製品が拡大したことにより、増収となっています。

## 連結貸借対照表ハイライト（前期末比）



## 持続的な成長投資を可能とする安定した財務基盤を維持

(百万円)

科目	'23年3月期末	'24年3月期末	前期末比 増減
資産合計	22,572	23,770	+1,198
流動資産	15,931	17,472	+1,541
固定資産	6,640	6,297	△342
負債合計	7,752	8,365	+613
流動負債	7,410	7,903	+493
固定負債	341	462	+120
純資産合計	14,820	15,404	+584
現預金	6,144	5,494	△649
有利子負債	1,460	124	△1,336
自己資本比率	65.7%	64.8%	△0.9p

増減ポイント	
資産	
【流動資産】	
現金及び預金の減少	△649
売掛金の増加	+1,387
商品の増加	+776
負債	
【流動負債】	
買掛金の増加	+703
1年内返済予定の長期借入金の減少	△1,336
未払法人税等の増加	+404
契約負債の増加	+307
純資産	
【純資産】	
利益剰余金の増加	+579

10

© 2024 LAC Co., Ltd.

次に、財務状況です。

第4四半期での売上拡大などにより、前期末との対比で、売掛金や商品が積み上がったほか、借入金の返済などにより、現預金が減少していますが、財政状態に問題はありません。

引き続き、持続的な成長投資を可能とする、財務基盤を維持しております。

連結キャッシュ・フロー計算書ハイライト			LAC	
<b>運転資本増となるも利益拡大により営業キャッシュ・フローが大きく増加、事業基盤投資を継続しつつフリーキャッシュ・フローも大幅に改善</b>				
(百万円)				
科目	'23年3月期 通期実績	'24年3月期 通期実績	発生ポイント	
営業活動によるキャッシュ・フロー	136	2,177	<b>営業キャッシュ・フロー</b> 税金等調整前当期純利益 2,004 減価償却費 1,023 のれん償却額 72 売上債権の増加額 <b>△1,385</b> 棚卸資産の増加額 <b>△938</b> 仕入債務の増加額 703	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,634	△708	<b>投資キャッシュ・フロー</b> ソフトウェアの取得による支出 <b>△442</b>	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,147	△2,134	<b>財務キャッシュ・フロー</b> 長期借入金の返済による支出 <b>△1,336</b> 配当金の支払額 <b>△798</b>	
フリーキャッシュ・フロー	△1,497	1,468		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,640	△649		
現金及び現金同等物期首残高	9,785	6,144		
現金及び現金同等物期末残高	6,144	5,494		

11

© 2024 LAC Co., Ltd.

次に、キャッシュ・フローの状況です。

営業キャッシュ・フローは、売掛金や商品の増加などによる、運転資本の増加はあったものの、利益拡大などにより、21億円と前期から大きく増加いたしました。

投資キャッシュ・フローは、セキュリティ事業に関連するシステム開発投資などもあり、7億円のマイナスとなりました。

営業キャッシュ・フローが拡大した結果、フリー・キャッシュフローは14億円の黒字へと転換しています。

財務キャッシュ・フローは、借入金の返済や配当金の支払いなどにより、21億円のマイナスとなっています。



## 連結決算ハイライト（期初予想比）



予想に織り込んでいなかったオフィス更改関連の費用計上を吸収し  
売上高、利益とも期初予想を上回って着地

(百万円)

科目	'24年3月期 期初予想(23/5/12)	'24年3月期 通期実績	予想比増減	
			増減額	増減率(%)
売上高	46,500	49,477	+2,977	+6.4
営業利益	1,900	2,174	+274	+14.4
営業利益率%	4.1	4.4	+0.3p	-
経常利益	1,900	2,153	+253	+13.4
経常利益率%	4.1	4.4	+0.3p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,250	1,379	+129	+10.4
自己資本当期純利益率(ROE)%	8.3	9.1	+0.8p	-

12

© 2024 LAC Co., Ltd.

次に、昨年5月12日に公表した期初予想との対比についてご説明いたします。

冒頭の決算のポイントでご説明したとおり、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも予想を上回る着地となりました。

## セグメント別業績（期初予想比）



SI事業は売上・利益とも予想を上回り、セキュリティ事業は売上は上回るも  
追加施策含めた先行投資の影響もあり利益は下回る

(百万円)

売上高	'24年3月期 通期予想(23/5/12)	'24年3月期 通期実績	予想比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	21,270	22,159	+889	+4.2
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	25,230	27,317	+2,087	+8.3
合計	46,500	49,477	+2,977	+6.4

セグメント利益	'24年3月期 通期予想(23/5/12)	'24年3月期 通期実績	予想比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	2,520	2,260	△259	△10.3
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	3,360	3,854	+494	+14.7
合計	5,880	6,115	+235	+4.0

全社共通	△3,980	△3,940	+39	-
------	--------	--------	-----	---

(注) セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の事業にかかる販売費及び一般管理費を含めた利益です。

13

© 2024 LAC Co., Ltd.

次にセグメント別です。SI事業は売上・利益とも予想を上回っております。

セキュリティ事業は、製品販売を中心に拡大したことで、売上は予想を上回りましたが、利益は、先にご説明した通り、先行投資の影響もあり予想を下回りました。

## 2025年3月期 連結業績予想

次に、今期の連結業績予想についてご説明いたします。

連結業績予想（前期比）				
売上高、利益ともに増収・増益を予想 来期以降の経費削減に寄与するオフィス更改の一時費用により 営業利益は概ね横ばい				
科目	'24年3月期 通期実績	'25年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	49,477	52,750	+3,272	+6.6
営業利益	2,174	2,180	+5	+0.3
営業利益率%	4.4	4.1	△0.3p	-
経常利益	2,153	2,200	+46	+2.1
経常利益率%	4.4	4.2	△0.2p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,379	1,500	+120	+8.7
自己資本当期純利益率(ROE)%	9.1	9.5	+0.4p	-

(百万円)

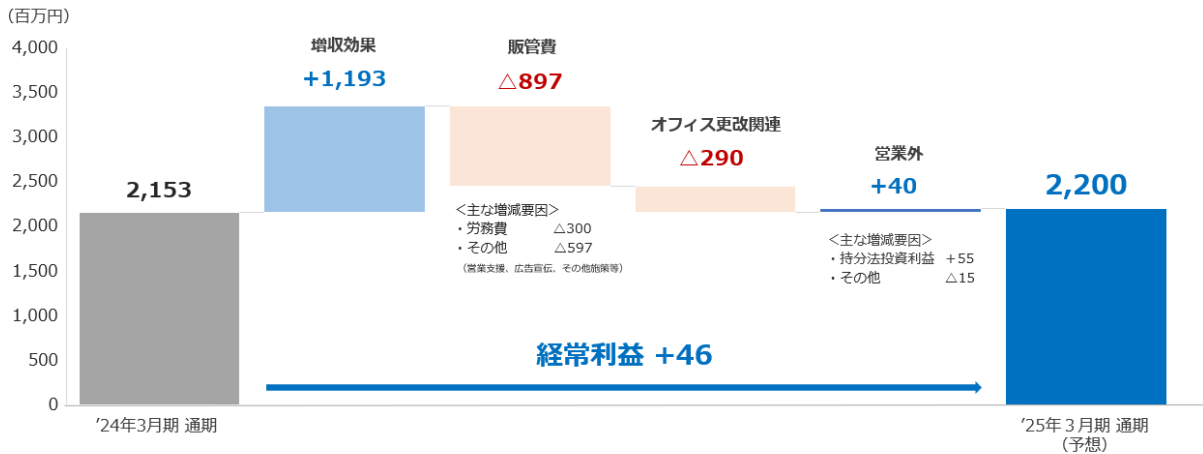
売上高は前期比 6.6%増の 527 億 5,000 万円、営業利益は、全面リニューアルを含めたオフィス更改に伴い一時的に発生する 2 億 9,000 万円の計上もあり、ほぼ横ばいの 21 億 8,000 万円の予想としています。

経常利益は 2.1%増の 22 億円、当期純利益は 8.7%増の 15 億円、ROE は 9.5%の予想としております。

## 経常利益 増減要因分析（前期比）



### 処遇改善を含めた労務費増、オフィス更改などに伴う経費増を見込むも 増収効果等により経常増益を予想



16

© 2024 LAC Co., Ltd.

次に、経常利益の増減要因分析です。

約 12 億円の増収効果を予想していますが、販管費で約 9 億円、オフィス更改に伴う経費で 3 億円程度増える見込みです。

営業外は、合併会社の持分利益が前期から改善することでプラスとなり、経常利益全体としては、前期から 4,600 万円の増益と予想しています。

## セグメント別業績予想（前期比）



### セキュリティ事業、SI事業ともにサービスビジネス拡大により増収・増益を予想 全社共通費用はオフィス更改や労務費増などにより増加予想

売上高	'24年3月期 通期実績	'25年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	22,159	24,560	+2,400	+10.8
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	27,317	28,190	+872	+3.2
合計	49,477	52,750	+3,272	+6.6
セグメント利益	'24年3月期 通期実績	'25年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	2,260	2,780	+519	+23.0
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	3,854	4,260	+405	+10.5
合計	6,115	7,040	+924	+15.1
全社共通	△3,940	△4,860	△919	-

(注) セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の事業にかかる販売費及び一般管理費を含めた利益です。

17

© 2024 LAC Co., Ltd.

セグメント別では、セキュリティ事業、SI 事業ともにサービス関連ビジネスの拡大を見込み、増収・増益と予想しています。

全社共通費用に関しては、先ほどご説明した一時的なオフィス更改費用で約3億円、労務費で約2億円、AI関連の研究開発強化に向けた原価や販売費からの組み替えの影響などで約4億円増えることにより、前期から大幅に増加すると予想しています。

### (ご参考) サブセグメント別業績予想 (前期比)



(百万円)

売上高	'24年3月期 通期実績	'25年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率%
<b>セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業</b>	<b>22,159</b>	<b>24,560</b>	<b>+2,400</b>	<b>+10.8</b>
セキュリティコンサルティングサービス	3,898	4,380	+481	+12.3
セキュリティ診断サービス	3,018	3,150	+131	+4.3
セキュリティ運用監視サービス	6,598	7,830	+1,231	+18.7
セキュリティ製品販売	7,773	8,430	+656	+8.5
セキュリティ保守サービス	869	770	△99	△11.4
<b>システムインテグレーションサービス (SIS) 事業</b>	<b>27,317</b>	<b>28,190</b>	<b>+872</b>	<b>+3.2</b>
開発サービス	18,218	18,950	+731	+4.0
HW/SW販売	3,530	3,550	+19	+0.5
IT保守サービス	3,092	2,980	△112	△3.7
ソリューションサービス	2,475	2,710	+234	+9.5
合計	49,477	52,750	+3,272	+6.6

18

© 2024 LAC Co., Ltd.

サブセグメント別の業績予想が、こちらのスライドとなります。

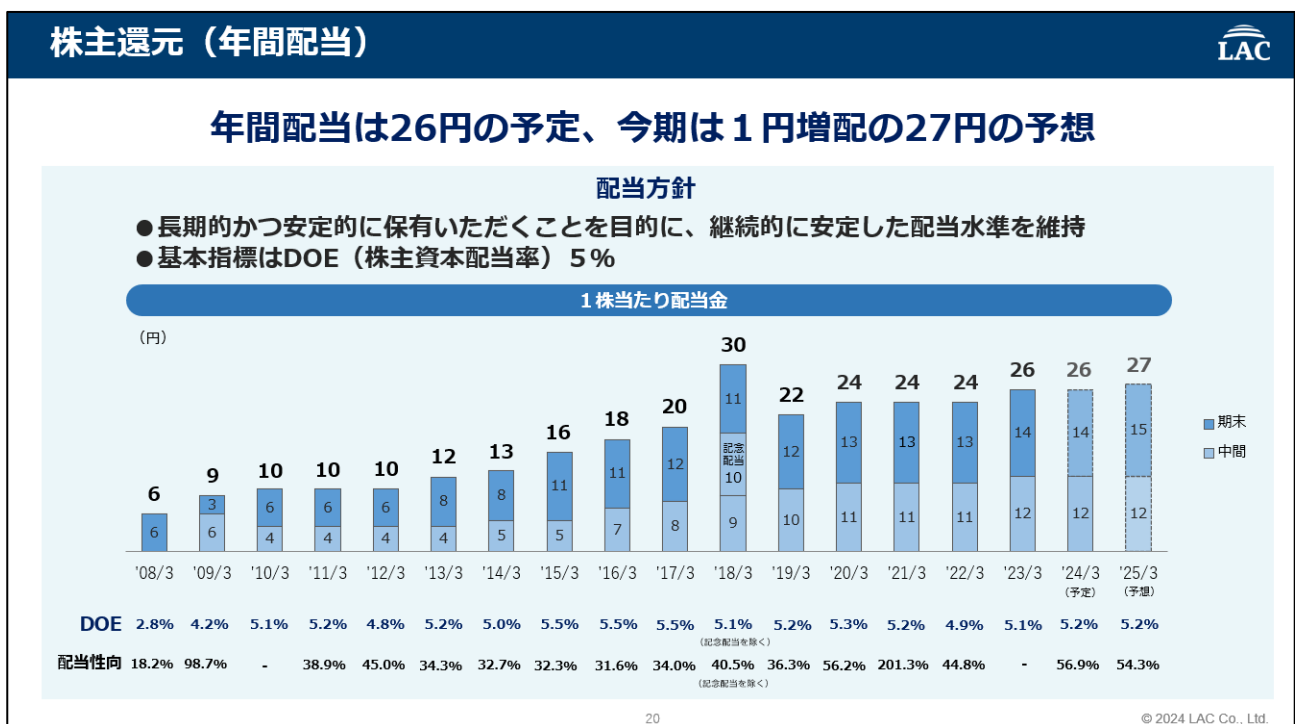
セキュリティ事業において、コンサルティングサービス、運用監視サービスは前期実施した体制強化やサービス力強化を踏まえて大幅な増収を予想しています。

診断サービスは、前期は大型案件がありましたが、当期は特段そのような案件を想定しておらず、自動診断を含めたウェブアプリケーション診断などの伸長により増収を目指します。

また、SI事業においては、開発サービス、ソリューションを中心に引き続き売上の伸長を予想しています。

## 株主還元

最後に株主還元となります。



当社の株主還元として、配当の基本指標を DOE 5%としています。

前期の期末配当については、期初予想のとおり 14 円とし、すでにお支払いした中間配当とあわせ、1 株当たりの年間配当を 26 円とする予定です。

また、今期の年間配当については、前期から 1 円増配の 27 円の予想としています。

あとは補足資料となり、決算関連のご説明は以上となります。



以上